

もっと知りたい！

令和4年度 鳥取県立美術館開館カウントダウンイベント レクチャー&トーク

令和7年春開館の鳥取県立美術館と  
そのコレクションについて



空想美術館のための写真を選ぶアンドレ・マルロー、1954年 出典: Catalogue de l'exposition; André Malraux, Arte-Adrien Maeght, Paris 1973.

岩美会場

10月29日(土) 午後1時 - 2時30分

岩美町中央公民館 (岩美町浦富 1038-6) / 定員 60名

米子会場

11月3日(木・祝) 午後2時30分 - 4時

米子市立図書館2階多目的研修室1・2 (米子市中町8) / 定員 60名

南部会場

11月23日(水・祝) 午後1時 - 2時30分

南部町総合福祉センターいこい荘大会議室 (南部町浅井 938) / 定員 40名

県内で

順次開催

聴講無料

入場は当日先着順

講師：尾崎信一郎（鳥取県教育委員会事務局美術館整備局美術振興監兼鳥取県立博物館副館長）／主催：鳥取県教育委員会

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した会場運営を実施。感染状況により予定を変更する可能性があります。
- ・対面による講義のみでWEB公開はありません。\*必要に応じて別途録画した動画をインターネット公開する可能性も検討します。

令和7年春、倉吉に鳥取県立美術館が開館します。全国でも最後発となる県立美術館はどのような建築となるのか。どのように運営されるのか。そしてどのような収集方針に基づいて作品を収集するのか。県教育委員会ではこれまでも機会をとらえて、出前説明会を開催し、県民の皆さんへの説明をはかってまいりましたが、このたび南部町でも開館カウントダウンイベントの一つとして、レクチャー&トークの催しを開くことになりました。

鳥取県立美術館の  
開館まであと2年半。  
美術館の建築や運営、  
作品の収集方針に  
ついてあらためて  
説明いたします。

この説明会では新しい美術館をさらに魅力的な施設とするために、私たちが構想している美術館の姿とコレクションの未来についてしっかりと説明し、会場の皆さんと対話したいと考えております。多くの方々の御参集をお待ちしております。



## [鳥取県立美術館の収集方針]

### 1. 鳥取県の美術

- (1) 鳥取県に関係した近世以前の美術作品
- (2) 鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品
- (3) 鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品
- (4) 鳥取県の自然や風物などを題材にした美術作品
- (5) 郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品

### 2. 国内外の優れた美術

- (1) 江戸絵画の多様性を示す優れた作品
- (2) 近代(明治～戦前)における各分野の参照点となる優れた作品
- (3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品
- (4) 館の内外に半恒久的に設置する作品

### 3. 同時代の美術の動向を示す作品

画像上：ポール・セザンヌ《大きな花束》(1892-95年)の展示風景 東京国立近代美術館  
中：小早川秋聲《虫の音》1938年 鳥取県立博物館蔵  
下：やなぎみわ《My Grandmothers MOEHA》2009年 鳥取県立博物館蔵



【講師紹介】尾崎 信一郎(おさき・しんいちろう、美術館整備局 美術振興監)

1962年生まれ。大阪大学文学部大学院西洋美術史学専攻博士課程単位取得退学。1987年より兵庫県立近代美術館に学芸員として勤務、1995年より国立国際美術館、1998年より京都国立近代美術館にて研究員、主任研究官として勤務。2006年より鳥取県立博物館にて美術振興課長、副館長を経て、2021年に館長。2022年より現職。著書として『絵画論を超えて』(東信堂、1999年)、共著として『戦後美術と美術批評』(ブリュッケ、2007年)など多数。企画した主な展覧会として「重力―戦後美術の座標軸」(国立国際美術館、1997年)、「アウト・オブ・アクションズ」(ロスアンジェルス現代美術館、1998年)、「痕跡―戦後美術における身体と思考」(京都国立近代美術館、2006年)、「生誕100年 彫刻家辻智堂展」(鳥取県立博物館、2010年)など多数。

【問合せ】美術館整備局 〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5(倉吉未来中心2階)  
鳥取県立博物館 美術振興課 〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目24

TEL:0858-47-3011 / FAX:0858-47-3022  
TEL:0857-26-8045 / FAX:0857-26-8041